

2018年3月25日

「自然発見、子ども探検隊」

講師：深串泰光氏（森林インストラクター）

参加：大人 12名 子ども 7名

良いお天気で桜も咲き誇った日比谷公園、さぞ人出が多かろうと思いつつ行ったのだが、普通の人だけでなく警官が多くてびっくり。そばで安倍政権反対のデモが予定されていたからのようだ。それに対して右翼の街宣車が大音量で宣伝活動をしていて、かなりうるさかった。

・・・が、子どもたちは元気だ。クッシー隊長から「コブコブのある葉を探せ！」「タンポポのタネと似ているタネをさがそう！」などの指令が飛ぶが、すぐに「あった！」「見つけた！」と見つけてくれる。見つけたときの眼はキラキラして、まさにセンス・オブ・ワンダーの喜びがあふれていた。一つの指令が完了するたびに首に下げた名札にシールを一枚貼り付け、最後には名札がかわいいシールで飾られた。最後の指令は宝の地図を見つけ、宝箱を探すことだ。ところが宝物の近くにはクマ（に扮したスタッフ）がいて襲ってきた。子どもたちはこれをカメハメ波でやっつけて、無事宝箱を見つけた。開けてみると、入っていた宝物は紫や水色の入ったきれいな石。蛍石と言って、暗いところで光を当てると発光するそうだ。みんなうれしそうに手に握りしめていた。

木の実でせっけん液を作ったり、汚い十円玉を草でこすって銅メダルにしたりいろいろな体験もでき、都心の公園でもこんなに楽しく遊べるのだと、大人も一緒に楽しんだひと時だった。
(文責：小川)

